

在来マス類種苗生産試験 (アマゴ種苗生産配布事業)

團昭紀・尾田文治

平成7年10月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重4.3g)として4月現在95,000尾を生産した。このうち、平成8年5月に河川放流用として40,000尾、養殖用種苗として34,000尾を有償配布した。

採卵用親魚は、平成6年10月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成8年10月まで飼育した。なお、採卵時における雌親魚の平均体重は400gであった。

採卵には、雌魚1,063尾から800,000粒(1尾平均750粒)の卵を得て発眼卵670,000粒(発眼率84%)を生産した。このうち民間養殖業者に530,000粒を有償配布した(表1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在2水系が使用され、このうち1号水系は、谷合の表流水を集めて使用し、平成8年4月~平成9年3月における水温は7.6~16.7の間で変動した。2号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は2.8~20.4の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。

表1 平成8年度アマゴ生産状況

採卵用親魚(雌)	1,063 尾
採卵用親魚(雄)	970 尾
採卵数	800,000 粒
1尾当たりの採卵数	750 粒
発眼卵数	670,000 粒
発眼率	84 %
養殖用種卵(売却)	530,000 粒
春稚魚用発眼卵	120,000 粒
春稚魚用浮上魚	100,000 粒
浮上率	83 %